

【目次】

1. 第139回 定例会のご案内(ハイブリッド)
 2. 令和5年度 総会報告
 3. 第138回 定例会の報告
 4. 事務局からの連絡
-

1. 第139回 定例会のご案内(ハイブリッド)

<第139回 定例会>

【日時】令和5年10月28日(土)15時00分～17時00分

【会場】文化学園大学

(ZOOMを用いたハイブリッド開催)

【参加費】[会員] 無料、[非会員] 500円(但し、学部生無料)

【テーマ】「テレビ番組における喫煙場面放映とその意図について」<問題提起>

【企画・報告】杉田秀二郎(文化学園大学)

【概要】

タバコ会社のテレビでのCMでは自主規制とはいえタバコそのものは映らないのに対し、最近、バラエティ番組において本筋とは無関係なタバコおよび喫煙場面が挿入されるケースや、企画そのものよりもタバコや喫煙シーンを放映することが目的と考えられるケースが増えてきていると感じられる。

この現状について、どのように思われるだろうか？

またこのような喫煙場面は偶然ではなく、意図的に放映されているのではないだろうか？

さらに、このような喫煙場面が放映されることは問題ではないのだろうか？ 問題にならないのだろうか？

現在、調査が終わっていたり結論が出たりしている研究ではなく問題提起という位置づけであるが、会員や参加者の意見も伺いながらともに考えていきたい。

2. 令和5年度 総会報告

去る6月24日(土)、令和5年度総会を開催しました。議長に中川会員を選出し、議案書に基づき下記5議案について審議されました。すべての議案について原案通り承認されましたので、報告いたします。

進行:高澤委員

第1号議案:令和4年度事業報告(説明:上杉委員)

第2号議案: 令和4年度決算報告(説明: 助友委員)

第3号議案: 代表の選出(説明: 助友委員)

・代表挨拶: 森川委員

※新運営委員(紹介: 森川代表)

第4号議案: 令和5年度事業計画案(説明: 田村委員)

第5号議案: 令和5年度予算案(説明: 助友委員)

※新運営委員の任期満了に伴う改選について、森川代表より新運営委員が報告されました。

池田康幸委員(埼玉県三芳町)

上杉剛委員(三郷市役所)

河村洋子委員(産業医科大学)

齊藤恭平委員(東洋大学)

白子純子委員(鎌倉女子大学短期大学部)

杉田秀二郎(文化学園大学)

助友裕子(日本女子体育大学)

高澤みどり(千葉県市原市)

田村光平(東京都)

林二士(札幌国際大学短期大学部)☆

細川佳能(東洋大学)

松岡正純(白井市役所)

森川洋(帝京平成大学)

また監事も併せて選出されました。

長岡知(順天堂大学)

鈴木了栄(北海道)☆

☆印新任

3. 第138回 定例会の報告

第138回 定例会

【日時】令和5年6月24日(土)15時00分～17時00分

【会場】日本女子体育大学 烏山キャンパス 東館3階 E308教室

(Cisco Webex Meetings を用いたハイブリッド開催)

【参加費】[会員] 無料、[非会員] 500円(但し、学部生無料)

【テーマ】性教育ムーブメント

～様々な活動形態と今後の展望～かながわ性教育サークルせいせい～

【進行】白子純子(鎌倉女子大学短期大学部)

【報告者】「私設文庫からつながる・つなげる生き方共育」長瀬初美

「ベッドサイド性教育」只隈希実

「日本の避妊の実際」かんざきあやの

【概要】

「性教育」は、健康社会学研究会ではあまり取り上げられてこなかったテーマでもある。最初に、日本の義務教育における「性教育」の現状として、学習指導要領内の「歯止め規定」を示し、歯がゆいほど教員たちにとって性教育が実践しにくく、発展できない現状にあることを紹介した。近年、ユネスコが『国際セクシュアリティ教育ガイダンス』を発売したことを皮切りに、「包括的性教育」という言葉が徐々に浸透し始めている。各家庭や地域でも少しずつ包括的性教育が取り込まれつつあり、密やかに「にわか性教育ブーム」が起きている。2022年11月に神奈川県内居住またはゆかりがあり、県内を中心に活動拠点としている者たちが、一般社団法人“人間と性”教育研究協議会の傘下に「せいせい」というサークルを立ち上げた。今回は、サークルの紹介と、メンバーそれぞれの活動拠点や切り口の異なる視点から話題提供をおこなった。

「ベッドサイド性教育」では、「性教育」を実践するために助産師を志し、資格を取得したという根っからの性教育のスペシャリスト？である只隈希実氏（聖マリアンナ医科大学病院）より、SRHR（Sexual Reproductive Health and Rights：性と生殖に関する健康と権利）の説明に続き、いかに普段から私達の生活の中に「性別によるバイアス」があるか、という事が具体的な事例を提示しながら説明された。男の子だから「凜々しいまゆげ」、女の子だから「足を開かないで！」など、幼少期から「性別」に囚われた言葉が第三者からシャワーのように降り注がれていることに警鐘を鳴らした。同時に、専門職者の発言の一つひとつを丁寧に「病院」という場から変えていきたい、という強い意志とメッセージを参加者に広く訴えた。

「日本の避妊の実際」では、ヘルスプロモーション推進センターの岩室紳也氏を師と仰ぎ“第2のコンドームの達人”としても活動しているかんざきあやの氏（認定 NPO 法人ピッコラーレ）から、諸外国に比べて避妊に関する選択肢が少ない実情や、コンドームにまつわるクイズが出題された。「コンドームの素材は 5 種類ある、○か×か」といった、一瞬考え込んでしまう内容について、その答え合わせとともに、「ゴムアレルギーだからコンドームは出来ない。」と言って、コンドームを使わない人は「たいてい嘘をついている。」本当であれば、ゴム以外の選択肢を知っているはずなのに、相手が選択肢を知らないことを良いことに「仕方なかった」ことにしている。と、全ての人に正しい知識を持つことの重要性を改めて訴えた。また、会場参加者にはコンドームをお土産として配布するサプライズもあった。

長瀬初美氏（かながわ性教育サークルせいせい代表）は、「人権」尊重を重視した、学びたいときに学べる、学びたくないときには学ばないことも重要で、そんな学びの場が必要と話した。神奈川県三浦市の自宅と横須賀市にある私設文庫「のほほん」を拠点とし、書籍の無料貸出や移動文庫を行っており、性にまつわる書籍と一般書籍それぞれ 1500 冊を超える所蔵で、安全・安心を確保したうえで提供していること、対話を大切にしていることなどを話された。蔵書の中から、すでに絶版になっている良本の紹介や、実際に貴重な蔵書の中から、数冊の文献を持参し、会場参加者に閲覧の機会を設けた。

話題提供の後、質疑応答では、会場参加者からは、「乳幼児から、子どもはどうやって生まれてくるの？」と聞かれたときにどう対応したらよいのか、「緊急避妊薬や経口中絶薬について」といった最新の情報についての質問が、オンライン参加者からは「今後の幼児教育で必要な内容や、教

員側が知っておくべき内容」について質問が寄せられ、話題提供者 3 名がそれぞれ丁寧に実情を踏まえて質問に回答し、定例会は幕を閉じた。

余談ではあるが、新型コロナウイルスの影響で 3 年以上定例会後の対面での懇親会の開催は見送られ、オンライン懇親会が数回行われていたが、会場参加者 8 名が懇親会に参加した。久々の対面交流を深めるとともに、参加してくれた学生さんから、保健体育の教員免許取得のための教育実習で、自分たちもそこまで詳しくないにもかかわらず、小・中校生を相手に「性教育」実施することがあると分かった。指導案を何度もダメ出しされ、志半ばで教員免許を諦める学生たちも少なくないと聞き、今後、誰もが当たり前「包括的性教育」を受けられるようになるためにも、活動していきたいと決意を新たにされた夜となった。

(文責:運営委員 白子純子)

4. 事務局からの連絡

◆令和 5 年度会費納入のお願い

毎年会費の納入についてご協力頂きありがとうございます。新年度会費の納入をお願いいたします。

(※メール配信にてお知らせ済みです)

【金額】正会員：5,000 円、学生会員：1,000 円

【会費納入先】

郵便振替：00100-8-41025 口座名：健康社会学研究会

銀行口座：みずほ銀行広尾支店 普通 1842122 健康社会学研究会 代表 森川洋

ゆうちょ銀行(金融機関コード：9900)当座 ○一九店(ゼロイチキュウ店：店番019) 004102

5 ケンコウシャカイガクケンキュウカイ

健康社会学研究会事務局

--

健康社会学研究会

☆HP☆：<http://healprokenkyukai.sakura.ne.jp/wp/>

事務局：〒157-8565 東京都世田谷区北烏山 8-19-1

日本女子体育大学 助友裕子研究室内

TEL/FAX: 03-3300-3216

E-mail: healpro.info@gmail.com

(担当:根岸加奈子、細川佳能、助友裕子)